

道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策【国土交通省】

施策概要

地方公共団体のニーズを踏まえ、予測浸水深よりも高い位置に整備されている直轄国道の高架区間等を避難施設として整備

効果

津波や洪水からの緊急避難場所を確保し、地域住民の人命を保護

全国的な対策と効果

対策 直轄国道の高架区間等を緊急避難場所として全国的に整備



道路の高架区間等を洪水時の緊急避難場所として活用するため、避難施設の整備を実施

直轄国道における高架区間等を緊急避難場所として整備した箇所: **403箇所/約800箇所**

※約800箇所のうち、既存施設活用等により約360箇所は対策不要

5か年加速化対策の効果



住民による避難のイメージ

利用方法の周知の様子(群馬県渋川市)

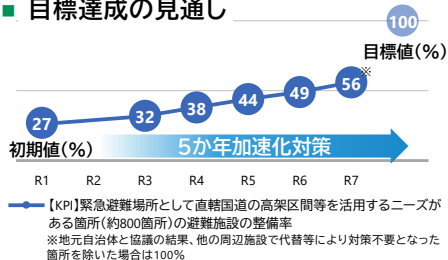
- 整備箇所において、地域の方々に利用方法について、説明会を開催し、周知。
- 地域防災計画等地方公共団体の計画に位置付け、洪水・浸水・津波対策を推進。

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
24億円	24億円	25億円
R6	R7	累計
21億円	18億円	112億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

目標達成の見通し



効果発揮事例

道路の高架区間等を活用し、津波等からの緊急避難場所を確保する



国土交通省 北海道開発局
室蘭開発建設部



北海道勇払郡厚真町



国道235号
(北海道勇払郡厚真町)

避難通路(スロープ)の設置



津波等の発生時はスロープを使用して避難が可能

位置図



事業費

0.5億円 (うち5か年加速化対策(加速化分)0.5億円)

事業の背景(地域の課題)

地方公共団体のニーズを踏まえ、予測浸水深よりも高い位置に整備されている直轄国道の高架区間等を緊急避難場所として全国的に整備しています。
 津波・洪水の浸水想定エリアと重複する直轄国道の道路区間のうち、浸水想定より道路の方が高い区間を抽出の上、地方公共団体との調整を踏まえ、予測浸水深よりも高い位置に整備されている直轄国道の高架区間等を避難場所として活用しています。

事業の内容

国道235号北海道勇払郡厚真町において、避難施設(避難路)等の整備を実施することで、津波予測浸水深よりも高い位置にある緊急避難場所までの経路を確保しました。

効果

令和7年7月のカムチャツカ半島付近で発生した地震による津波警報発表時において、予測浸水深よりも高い位置に整備された避難施設が活用されました。

人命・財産の被害最小化

激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

交通・ライフラインの維持

インフラの老朽化対策

施策のデジタル化

国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

災害関連情報の高度化